

財政通信 No.26

こんにちは。

前回の財政通信(NO25)で急に振られて今回担当になってしまった財政課 2年目Kです。

さて、今年の夏はまさに酷暑でした。みなさん体調管理など大変だったと思います。

私は毎日熱戦が繰り広げられる高校野球を冷房の効いた部屋で観戦していました。スーパー1年生の実力や私の高校時代の監督の采配などに注目して見ていましたが、なかでも決勝戦はまさに高校野球といった好ゲーム。最後の最後まで目が離せない展開でした。

ところで、最後まで目が離せない展開といえば決算…。

ということで、今回は決算状況についてです。

ある日のやりとりです。登場人物は監督(課長)、コーチ(補佐)、主将(係長)、選手(課員)ということで。

5月中ごろ、県から地方財政状況調査(通称:決算統計)の通知がきます。これは総務省が実施するもので、地方公共団体の決算状況について、統一ルールに基づいてまとめたものです。例年、この時期になるとピリピリムード。締め切りに追われながら毎日業務を進めています。コーチ(補佐)はグラウンド全体に目を光らせ、監督(課長)は選手達(課員)を信じてどっしりと構え、試合終了後の胴上げ(打ち上げ)を心待ちにしています。

§1 決算の状況

選手:収支状況がまとまりました。

コーチ:形式収支と実質収支はどうだった?

主将:形式収支が20億500万円、実質収支が10億6,400万円です。実質収支は去年が12億6,500万円なので、2億100万円ほどの減額ですが、10億円の大台は超えています。

コーチ:単年度収支はマイナスだけと、黒字額が10億円の大台を維持できたのは良かったかな。財政調整基金に6億円積み増しも出来たし、まあまあ良好な決算と言っていいかな。これも、各課にいろいろと我慢してもらって、たくさん汗をかいてもらった成果だね。

ところで、形式収支と実質収支の差が大きいのはなんだっけ?

主将:塵芥処理組合の大規模改修工事の負担金(8億2,100万円)を繰り越しましたからね。あと、国の地方創生や消費喚起などの交付金事業もありますね。

選手:すでに消費喚起事業のプレミアム商品券は販売しましたよね。大行列。即日完売…。担当課の方々、事務に従事された職員のみなさんお疲れ様でした。経済効果に期待しましょう!

§ 2 財政指標

コーチ: 経常収支比率はどうだろう? みんな注目しているよ。

主将: 90.4%です! 前年度が 91.2%だったので、0.8 ポイント減です。減収補てん債及び臨時財政対策債を除いたものも 99.2%で前年度の 101.6%から 2.4ポイント減となりました。公債費や一部事務組合への負担金の減により経常経費が減少して、改善の方向にあります。

コーチ: 条例で定める目標値(90.0%)まであと一步。今までは、ぼんやりとしか見えなかったけど大分はつきり見えてきたね。でも、まだ県内市平均値までは大分差があるから、気を抜かずに継続して財政健全化を推進する必要があるね。

選手: 公債費負担比率も公債費負担が減って 15.3%まで改善してきました。ただ、こちらも県内市平均まで差があるので、まだまだ気は抜けません。

§ 3 歳入の状況

コーチ: 歳入はどんな感じかな?

選手: 歳入決算額は 253 億 500 万円です。昨年は、国の景気対策に歩調を合わせて行った大型事業などで規模が拡大していましたので、全体で 9 億 2,200 万円の減額です。それでも、過去と比較すると規模は大きいです。

主将: 地方交付税は 43 億 2,300 万円で前年度より 6 億 6,100 万円増えていますが、これは塵芥処理組合の大規模改修工事の負担金が震災復興特別交付金の対象になった影響によるものですね。普通交付税は 1 億 7,800 万円減額です。

その他、清掃工場施設整備事業費負担金の精算金(9 億 3,000 万円)、国庫支出金(3 億 8,600 万円)、地方債(5 億 8,600 万円)の減額が大きいですね。地方債は、臨時財政対策債が 2 億 4,100 万円減額です。

コーチ: 市税収入はどうだった?

主将: 1 億 2,000 万円の増収です。2 年連続で 100 億円の大台を突破しました。固定資産税・都市計画税の家屋分の増収が大きいですが、現年分総額で見るとそれほど伸びていません。増収のうち 1 億 800 万円が滞納繰越分収入によるものです。

コーチ: 平成 27 年度は評価替えの年だし、景気もまだ不透明だから注視しないとイケないね。依然として地方交付税など国への依存度が高いので自主財源の確保に努めていかなければならないね。

§ 4 歳出の状況

コーチ: 歳出はどう?

選手: 歳出決算額は 232 億 9,900 万円です。歳入同様、前年より 16 億 600 万円の大幅減です。主な減額は衛生費、教育費、公債費ですね。衛生費は塵芥処理組合への償還費負担金が 2 億 9,100 万円減りましたからね。教育費は小中学校への空調機設置などの大型事業が完了しました。公債費は平成 15 年度の臨時財政対策債の償還終了が大きいですね。

一方、増額が大きかったのは民生費と農林水産業費です。民生費は 1 億 9,600 万円増ですが、大きな要因は臨時福祉給付金(1 億 2,400 万円)と子育て世帯臨時特例給付金(9,900 万円)の創設です。それ以外でも障がい者自立支援給付事業が 7,400 万円増えていますが、私立保育所保育助成事業が 1 億 1,000 万円減るなどしていますので、国の政策による臨時給付金を差し引くと横ば

いといった感じです。農林水産業費は1億6,600万円増です。そのうち1億5,500万円は農業経営基盤強化促進対策事業による増額です。特に強い農業づくり推進対策事業6,100万円、経営体育成支援事業(被災農業者向け事業分)4,900万円が大きいです。どちらも補助事業ですね。

コーチ:償還の進捗は進んでいるよね。これから、老朽化の進行などにより改築・更新事業が本格化するだろうから、起債の管理はしっかりとしていかないとね。あと、民生費。少子高齢化の進展に伴い着実に増加してくるだろうし。引き締めていかないとね。

主将:そうですね。とにかく、自主財源の確保、経常経費の削減に尽きますが、現実的に市税が急激に伸びることもないですし、歳入に見合った歳出構造を確立する必要がありますね。

§5 健全化判断比率

健全化比率は「地方公共団体の財政の健全化に関する法律(通称:財政健全化法)に基づき毎年、算出しているものです。実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率を健全化4指標と呼んでいます。

さて、平成26年度はどうだったのでしょうか。

コーチ:決算統計に続いて健全化判断比率の算定お疲れ様。4指標の状況はどう。

主将:実質赤字比率、連結実質赤字比率は算出されませんでした。そもそもこの数値が算出されたら条例に定める早期警戒基準に該当することになりますから当然です。実質公債費比率は7.7%で前年より1.9ポイント改善しました。分子に含まれる元利償還金や一部事務組合の元利償還負担金が減少したことが大きいですね。

コーチ:将来負担比率は?

選手:将来負担比率は一般会計等が負担する将来の負担額よりも、将来負担額に充当可能な財源の額が上回ったため算出されませんでした。将来負担額は地方債現在高や小中学校にかかる都市再生機構立替返済金の債務負担行為に基づく支出額が減少したことが大きいですね。また、充当可能財源は充当可能基金の増加が最も大きいです。

コーチ:健全化判断比率は改善しているね。財政健全化の取組みを着実に前進させてきた表れだね。

それでは、監督締めをお願いします。

§6 最後に

監督:え。なんか言った?

選手:ちよつと。ちよつと、ちよつと…。

監督:冗談だよ。算定お疲れ様。財政数値はおおむね改善していて、良い方向に進んでいるね。これも、各課の職員の協力のお蔭だね。だけど不安要素もまだまだあるよね。

選手:ですよね…。

監督:やっぱり、インフラを含めた公共施設の更新問題は脅威だよ。更新の先送りでは将来負担を減らすのは簡単だけど、結果として機能低下を招くだけでなく、老朽化による事故が全国的に発生しているからね。将来負担の削減は大切だけど、必要な施設の更新は後回しにはできないから

ね。大切なのは、公共施設マネジメント。公共施設再編成の基本方針に基づき取組みを進めていくしかないな。歳入は、固定資産税の評価替えで減収見込みだし、市税収入全体で100億円を維持できるかも微妙だからな。今後も、少子高齢化が進展すると給与所得者が減って税収は伸び悩むだろうし、まだまだ国に依存していくしかないのかな。歳入も歳出も課題は山積だな。はあ～。いやいや、こういうときこそ高校球児のあきらめない精神、夢と希望に向かって突き進んでいく姿勢を思い出して、知恵を出し合って難局を乗り越えていこう。じゃ、打ち上げ行くか。

一同：やっぱりそう来ますか。

長々とお付き合いいただきありがとうございました。詳しい内容はホームページの財政課情報をご覧ください。

次回は、財政課のK副主査が担当します。乞うご期待。